



令和5年度

山形市

地域包括支援センター の概要

山形市 長寿支援課

目 次

I 山形市地域包括支援センターの活動

1	地域包括支援センターの概要	1
2	地域包括支援センター 経営者会議	3
3	地域包括支援センター センター長会議	3
4	地域包括支援センター ブロック情報交換会	4
5	機能別部会活動	4
6	自立支援型地域ケア会議	5
7	地域ケア調整会議	5

II 各地域包括支援センターの活動

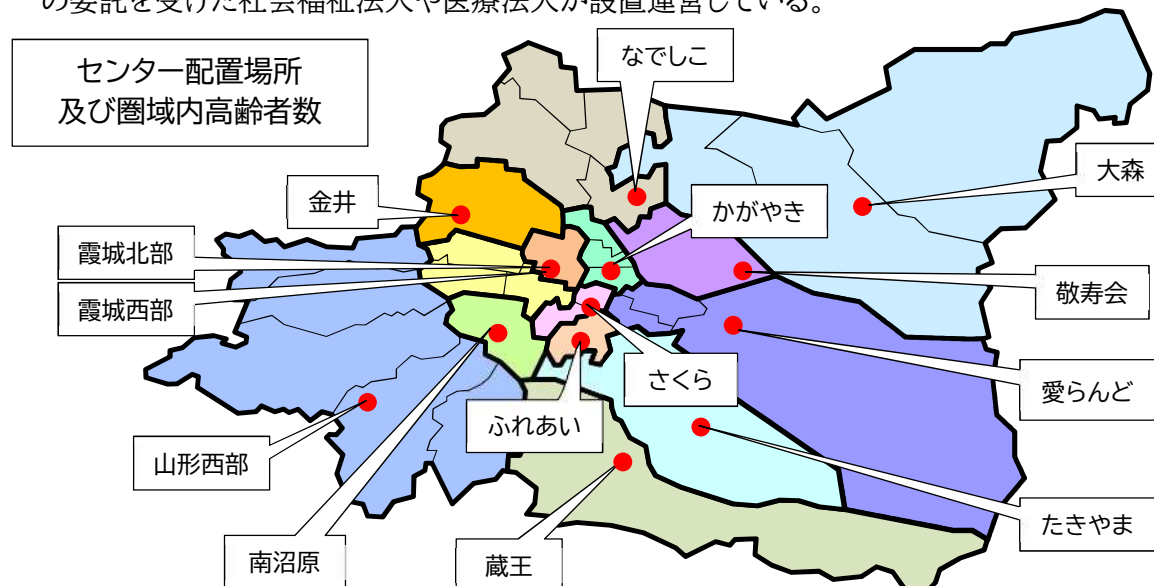
1	済生会なでしこ地域包括支援センター	7
2	地域包括支援センター大森	9
3	地域包括支援センター敬寿会	11
4	たきやま地域包括支援センター	13
5	地域包括支援センターふれあい	15
6	山形西部地域包括支援センター	17
7	篠田好生会さくら地域包括支援センター	19
8	地域包括支援センターかがやき	21
9	山形市社会福祉協議会霞城北部地域包括支援センター	23
10	山形市社会福祉協議会霞城西部地域包括支援センター	25
11	蔵王地域包括支援センター	27
12	済生会愛らんど地域包括支援センター	29
13	南沼原地域包括支援センター	31
14	金井地域包括支援センター	33
15	山形市基幹型地域包括支援センター	35

I 山形市地域包括支援センターの活動

1 山形市地域包括支援センターの概要

高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるように、包括的及び継続的な支援を行う地域包括ケアを実現するための中心的役割を担う機関として、山形市では、高齢者人口や地域特性等を考慮し、市内を14の圏域に分け、各圏域に「地域包括支援センター」を設置している。

山形市では、包括的支援事業業務委託により実施しており、地域包括支援センターは山形市からの委託を受けた社会福祉法人や医療法人が設置運営している。



済生会なでしこ地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市長町751		
担当地区	出羽、大郷、明治、千歳		
圏域人口	20,732	高齢化率	34.4
高齢者人口	7,142		

地域包括支援センター大森			
社会福祉法人山形			
所在地	山形市大字大森2139-1		
担当地区	楯山、高瀬、山寺		
圏域人口	8,664	高齢化率	41.6
高齢者人口	3,607		

地域包括支援センター敬寿会			
社会福祉法人敬寿会			
所在地	山形市五十鈴3-6-17		
担当地区	鈴川		
圏域人口	17,945	高齢化率	30.2
高齢者人口	5,425		

たきやま地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉事業団			
所在地	山形市大字岩波5		
担当地区	滝山		
圏域人口	22,661	高齢化率	27.8
高齢者人口	6,296		

地域包括支援センターふれあい			
医療法人社団悠愛会			
所在地	山形市桜田西4-1-14		
担当地区	第六		
圏域人口	13,214	高齢化率	30.0
高齢者人口	3,967		

山形西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉事業団			
所在地	山形市すげさわの丘46		
担当地区	南山形、本沢、大曽根、西山形、村木沢		
圏域人口	17,429	高齢化率	33.3
高齢者人口	5,800		

(単位…人口：人、高齢化率：%)

篠田好生会さくら地域包括支援センター			
医療法人篠田好生会			
所在地	山形市桜町2-68		
担当地区	第一、第二		
圏域人口	14,424	高齢化率	31.1
高齢者人口	4,491		

地域包括支援センターかがやき			
社会医療法人松柏会			
所在地	山形市旅籠町1-7-23		
担当地区	第三、第四、第九		
圏域人口	20,757	高齢化率	29.4
高齢者人口	6,109		

山形市社会福祉協議会霞城北部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区	第七		
圏域人口	15,066	高齢化率	30.1
高齢者人口	4,540		

山形市社会福祉協議会霞城西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区	第十、飯塚、樺沢		
圏域人口	15,049	高齢化率	31.9
高齢者人口	4,795		

蔵王地域包括支援センター			
社会福祉法人妙光福祉会			
所在地	山形市蔵王半郷石高79-7		
担当地区	蔵王		
圏域人口	16,280	高齢化率	32.5
高齢者人口	5,285		

済生会愛らんど地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市妙見寺4番地		
担当地区	第五、第八、東沢		
圏域人口	21,300	高齢化率	29.7
高齢者人口	6,325		

南沼原地域包括支援センター			
社会福祉法人山形公和会			
所在地	山形市沼木1129-1		
担当地区	南沼原		
圏域人口	17,326	高齢化率	29.2
高齢者人口	5,064		

金井地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市陣場903		
担当地区	金井		
圏域人口	15,469	高齢化率	29.8
高齢者人口	4,603		

基幹型地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区			
圏域人口		高齢化率	
高齢者人口			

山形市			
人口	236,316	高齢化率	31.1
高齢者人口	73,449		

※担当地区を持たない

R6. 4. 1 現在

2 地域包括支援センター 経営者会議

【開催目的】

地域包括支援センターの運営方針や予算・人員体制に関わる事項、制度改正に伴う説明、高齢者保健福祉計画の共有などについて協議する。

【参加者】

各地域包括支援センター受託法人代表者、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課・指導監査課

【令和5年度の開催】

開催日	報告・協議内容等
第1回 6月28日	・地域包括支援センターの相談実績等について ・介護保険事業等の実施状況について ・各センターの職員配置状況について ・指定介護予防支援事業の状況について ・外部会議への委員選出について ・令和5年度地域包括支援センター評価事業について ・地域包括支援センターの基本委託料について
第2回 9月28日	・地域包括支援センターの相談実績等について ・介護保険事業等の実施状況について ・令和5年度地域包括支援センター評価事業について ・高齢者個別避難計画作成モデル事業について ・地域包括支援センター職員の時短勤務について ・令和5年度山形市高齢者及び障がい者雪かき等支援事業について
第3回 1月31日	・山形市高齢者保健福祉計画(第9期介護保険事業計画)(案)について ・指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等について ・地域包括支援センター運営方針(令和6年度～令和8年度)(案)について ・令和6年度地域包括支援センターの運営について ・地域包括支援センター職員の短時間勤務制度の利用について(案) ・山形市介護予防モデル再構築事業について ・令和6年度聴こえくつきり事業について ・山形市認知症医療ネットワークについて ・地域包括支援センターの相談実績等について ・介護保険事業等の実施状況について ・生活支援体制整備事業の実施状況について

3 地域包括支援センター センター長会議

【開催目的】

制度の周知と方針の共有、地域包括支援センターの共通課題についての検討、山形市からの情報共有などを行う。

【参加者】

各地域包括支援センター長、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課・指導監査課

【令和5年度の開催】

開催日	報告・協議内容等
第1回 4月11日	・長寿支援課・介護保険課・指導監査課の業務体制及び地域包括支援センター等の職員体制について ・令和5年度地域包括支援センター長会議等の開催予定について ・山形市長寿支援課主催の研修会等の開催日程について ・山形市による介護保険以外の生活支援サービスについて ・令和5年度介護予防教室等の予定について
第2回 3月22日	・地域包括支援センターの相談実績等について ・包括的支援事業業務委託の変更点やスケジュールについて ・運営状況調査(自己評価)結果について ・令和6年度介護報酬改定に伴う介護予防・日常生活支援総合事業について ・山形市指定介護予防業務条例について ・第3回推進協議会及び地域ケア調整会議での意見について ・個別避難計画作成モデル事業について ・令和6年度重層的支援体制整備事業等について ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について ・介護保険事業等の実施状況について

4 地域包括支援センター ブロック情報交換会

【開催目的】

地域包括支援センター業務の円滑な遂行のために、3ブロック(北東、中央、南西)に分かれ、日常的な情報共有、業務上の課題の共有などを行った。地域包括支援センターが主体となり、各ブロック随時開催した。

5 機能別部会活動

【開催目的】

地域包括支援センターの4つの機能(総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防ケアマネジメント業務)を向上・推進するために開催した。地域包括支援センターの業務上の課題について、専門性に基づき分析し、解決に向けた取組みを行った。

【令和5年度の実施状況】

名称	主な取り組み
総合相談部会	障がい者相談支援事業所との合同研修の企画や、介護や障がい分野における連携のためのワーキングによる活動など、地域包括支援センター職員のスキルアップや他機関との連携に向けた取組みを行った。
権利擁護部会	「支援者不在ケース」を課題として設定、“社会資源ハンドブックの内容更新”“保証人不在時の住居確保”の作業班を編成して活動を行った。市消費生活センター・市成年後見センターによるミニ講座を開催し、専門職としてのスキルアップを図った。また、病院の医療MSWとの情報交換を開催し、多機関による連携対応の必要性を共有した。
包括的・継続的ケアマネジメント部会	個別ケアマネ支援の事例検討を通したスーパービジョンの手法の習得や各自のスキルアップを図った。また、居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員との交流の機会を設け、日頃から相談・協力できるような関係づくりを進めた。

介護予防ケアマネジメント部会	部会メンバーが共通で取り組みたいと考えていることや疑問に感じている事柄についてのワーキンググループ活動を継続し(介護予防の取組、通所 C との情報交換、精神疾患の方への対応)、意見・情報交換や部会内でのアンケート調査を通じて、課題の整理や部会として今後実施できそうなこと等を検討した。
----------------	--

6 自立支援型地域ケア会議

【開催目的】

高齢者の自立支援に資するケアマネジメントの支援や高齢者の QOL の向上、介護給付の適正化の取り組みに資することにより、医療・介護・住まい・生活支援等が一体的に提供される地域包括ケアシステム構築の実現を目指すために開催した。

また、会議を通して、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員のスキルアップを図るとともに、検討事例を積み重ねることにより地域課題の把握につなげた。

また、会議から見える地域課題の整理を行った。

【参加者】

- ・コーディネーター：長寿支援課・介護保険課職員
- ・事例提供者：地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所職員、小規模多機能型居宅介護事業所職員、看護小規模多機能型居宅介護事業所職員
- ・助言者：薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士
- ・生活支援コーディネーター

【令和5年度の開催】

市主催：14回開催(28事例) 地域包括支援センター主催：28回開催(56事例)

7 地域ケア調整会議

【開催目的】

包括的支援事業を担う多機関が把握・整理した地域課題のうち、多機関で共有して協議・対応すべき課題について、解決に向けた方向性と役割分担等を協議し、一定の方向付けを行った。

【参加者】

各機能別部会代表者、介護保険事業所、多機関協働支援センター、おれんじサポートチーム、在宅医療・介護連携室ポピー、生活支援コーディネーター、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課

【令和5年度の開催】

3回(7/27、12/8、2/27)

Ⅱ 各地域包括支援センターの活動

1 済生会なでしこ地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	内容
7月6日	- 令和4年度事業報告 - 令和5年度事業計画 - 情報交換「地域活動の今ー工夫していることや課題ー」

◇ 個別地域ケア会議 10回 , 自立支援型地域ケア会議 4回

◇ センターだよりの発行 4回

◇ 関係機関会議・行事等への参加

内容	千歳地区	出羽地区	明治地区	大郷地区
民生委員児童委員定例会	4回	4回	4回	
福祉推進会議		1回		1回
福祉協力員研修会	1回	1回	1回	2回
その他	・文化祭	・文化祭	・福祉まつり ・文化祭 ・介護者激励懇談会	・地区社協総会 ・福祉マップ更新研修

2 権利擁護業務

◇ 高齢者虐待相談(困難事例含む)への対応 22件

◇ 消費者被害防止啓発・周知活動(おたより配布・サロン参加) 3件

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 居宅介護支援事業所等研修会 1回 , 管理者交流会 1回

◇ 地域密着型サービス事業所運営推進会議 7回

◇ 介護支援専門員に対する個別・相談対応 21回

4 介護予防の取り組み

◇ 通所型サービスB(ひとあひ処「合」)継続支援 12回

◇ 介護予防教室開催(ながいき元気くらぶ) 6回

◇ ケアラズカフェ開催 1回

◇ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施モデル事業, 人生会議・在宅療養普及啓発活動

5 認知症施策への取り組み

◇ 認知症サポーター養成講座開催 2回

◇ 認知症カフェ継続支援 , 認知症スキルアップ講座開催 1回

紹介したい取り組み

事業名	山形市立第七中学校での認知症サポーター養成講座の開催について
事業の目的	若い世代などの地域住民へ認知症を正しく理解してもらい、出来る範囲で手助けをする「認知症サポーター」を養成する
事業概要	山形市立第七中学校保護者様より、「認知症について学びたい」とのお声がけをいただき、令和5年10月26日山形市立第七中学校にて、おれんじサポートチームえがお、山形市社会福祉協議会生活支援コーディネーターの方々のご協力のもと、「認知症サポーター養成講座」を開催した。 〇×クイズや認知症講座にて理解を深め、生徒にも寸劇に参加してもらい真剣に取り組んでいただいた。どのような声掛けが良いか、例を踏まえてみんなで考える時間を作り、自分だったらどうするか…と一緒に考えてもらった。 また介護や福祉に興味をもってもらえるよう介護プライド事業の紹介を行い、介護・福祉の魅力発信を行った。 山形市立第七中学校の3年生約110人が受講し、認知症サポーターは山形市で3万人を突破。3万人達成のセレモニーには山形市のお宝広報大使「はながたべにちゃん」が駆けつけ、認定証やオレンジリングが贈られた。 
成果または感想	生徒の感想からは「認知症の人に接するときには3つのないを大切に声をかけたい」「声をかけるときは前からおこなう」「認知症の人が住みやすい環境を作っていこうと思った」などのあたたかい言葉が寄せられ、心構えや接する時のポイントを学び認知症に対する理解を深めていただいた。 当日まで関係機関と何度か打ち合わせを行い、学校関係者とも話し合いの機会を持てたことが大きな成果となった。 生徒のみなさんは学生カバンにオレンジリングをつけてくださっており、若い世代への周知・啓発活動が必要であることを実感した。今後も若い世代を巻き込んだ認知症の人にやさしいまちづくりを支援していきたい。

2 地域包括支援センター大森

1 総合相談業務

◇ 地区会議・行事への参加

高瀬地区：高齢者支援連絡会、地域福祉推進会議、福祉協力員研修会

楯山地区：合同研修会、買い物支援打合せ、福祉協力員研修会

山寺地区：福祉協力員研修会、地区社会福祉協議会全体会議

その他：各地区三者懇談会参加 17回

◇ 地区役員定例会への参加 35回

◇ センターだよりの発行 6回

2 権利擁護業務

◇ 虐待案件対応 3件

◇ 生活困窮等の対応 3件

◇ 認知症サポーター養成講座 2回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 圏域内介護支援専門員連絡会 2回

・訪問看護についてや BCP について情報共有 ・近況や困りごとの共有

◇ 介護支援専門員への個別支援 8回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 高瀬地区いきいき百歳体操継続支援

百歳体操開催時に山形市長寿支援課予防推進係と共に体力測定の実施や、健康講座を開催した。10月には音楽療法を実施した。

◇ 山寺地区いきいき百歳体操継続支援

10月～12月 山形市長寿支援課予防推進係にご協力いただき、運動・栄養・認知症について百歳体操の実施に合わせ、健康講座を開催した。

◇ 中里地区認知症予防教室の後方支援



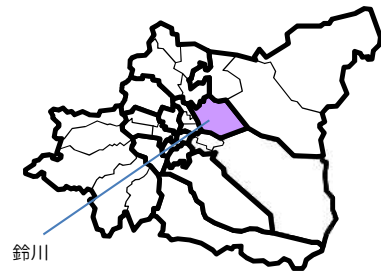
◇看護学生実習受け入れ

地域在宅看護論の実習の他、在宅看護連携実習、総合看護学実習、地域看護診断の実習など数多くの看護学生の実習受け入れを行った。コロナが５類へ移行したことをうけ、今年度はサロンや住民主体の通いの場などにも参加させていただき、住民の方々と交流する機会をもつことができた。

紹介したい取り組み

事業名	今日のメニューはこれで決まり！～見直そう栄養バランス～
事業の目的	介護予防や健康など様々なことを知ってもらうことで生活支援や地域福祉活動などに興味を持ってもらうきっかけにする。地区住民の生きがいやつながりづくりにする。
事業概要	高瀬地区高齢者支援連絡会の担い手養成講座の一環として、特別養護老人ホームサンシャイン大森の管理栄養士を講師としてお招きし、栄養講座を開催した。自身の食生活を思い出してみることや、BMIを実際に計算する、塩分摂取量をチェックしてみるなど、適宜自身の食生活について振り返る時間を取りながら講義を受けた。参加者一人ひとりがわがごととして取り組まれており、質問するなどとても積極的な姿勢が見られた。一人暮らしや高齢者二世帯も増えているため、年齢を重ねると食事メニューを考えたりすることすらも億劫になっているなどという声もあり、後半はすぐにでも試せるお惣菜アレンジレシピや缶詰アレンジレシピを多数紹介していただき、大変好評だった。 
成果または感想	管理栄養士２名体制で講師してくださったおかげで、住民の方と１対１でお話する時間もとることができ、参加された方は聞きたいことをしっかり聞くことができたようで満足されている様子が見えた。BMIを計算したことがないという方も多く、我々からしてみるととても身近な数値だと思っていたが、住民にとってはまだまだ浸透していないのだと感じた。今後はコロナ前に行っていた調理実習など実践型の講座の開催も地域の方々と相談しながら、再開できればと考えている。

③ 地域包括支援センター敬寿会



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
3月7日	令和5年度の活動報告、次年度に向けて

◇ 鈴川地区ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
8月3日	講話 フレイル予防教室短縮版を体験 フレイルとは・認知症と社会参加 栄養・口腔・運動 アンケート記入

◇ いきいきサロン等への参加 15回

◇ 地区役員定例会への参加 27回

◇ 地区行事への参加

鈴川地区社会福祉協議会常任理事会
鈴川地区民生委員児童委員定例会
鈴川地区福祉協力員研修会 ・ 東西南北ブロック福祉協力員情報交換会
地域福祉推進会議 ・ 鈴川地区戦没者慰霊祭 ・ 高齢者いきいき交流会
鈴川交流センター消防訓練 ・ 大野目第一町内会高齢者の集い ・ 高砂忘年会
三者懇談会（表宿1（3回）・双月第5・5町内（和合第4・沼の辺西・沼の辺・山家ガーデン・山家本町）合同）

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 消費者被害啓発活動 6回

◇ 虐待防止研修講師 1回

◇ 倫理及び法令順守研修講師 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 個別支援型地域ケア会議 1回

◇ 介護支援専門員への個別支援 1回

◇ 小規模多機能型居宅介護事業所・居宅介護支援事業所



4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ヒアリングフレイル聞こえくつきり事業 1 回
- ◇いきいき百歳体操 毎週火曜日
- ◇介護予防教室～健康講話～ 3回
- ◇出前講座(健康講話) 12回
- ◇認知症サポーター養成講座 1 回

紹介したい取り組み

事業名	鈴川おれんじカフェ
事業の目的	前年度開催したネットワーク連絡会のなかで、委員の医師より「認知症の方が増えており、介護している家族の負担は大きい。認知症当事者はもちろん介護している家族への支援も必要ではないか」というご意見をいただき、「認知症の方を介護する家族のほっと一息つける場所」を目指し、認知症カフェを立ち上げた。
支援	申込制とし、認知症とその家族を対象。 日時：毎月第4木曜 14：00～15：00 場所：鈴川交流センター 集会室 第1回はリフレッシュを目的に指ヨガの講師を迎え開催。参加者は12名。佐藤清医院の佐藤清 Dr の参加もあり、参加者同士のコミュニケーションもはかれた。 内容は参加者からの意見を取り入れ、随時変えていく予定。  
成果または感想	さまざまなカフェを見学し、参加させていただきながらノウハウを学び、生活支援コーディネーター、ボランティアさんの協力のもと、「鈴川おれんじカフェ」をオープンすることができました。まだまだ手探りの状態ですが、「ほっと息抜きできる場所」として地域に根差したカフェを目指していきたいと思います。

4 たきやま地域包括支援センター



1 総合相談業務

- ◇ いきいきサロンや介護予防教室での相談対応 27回
- ◇ 地区役員定例会への参加
民生児童委員協議会定例会 地区社会福祉協議会総会・幹事会
我がごと丸ごと検討会 地区福祉協力員連絡会
- ◇ 地区行事への参加
福祉推進会議、介護予防の集い、福祉協力員研修会、三者懇談会、絆づくりの会
- ◇ センターだよりの発行 6回（全戸配布1回、回覧5回）

2 権利擁護業務

- ◇ 成年後見制度申立支援 4件
- ◇ 権利擁護に関する周知啓発（成年後見制度、高齢者虐待防止、消費者被害防止等）
- ◇ 高齢者虐待の相談対応 1件



3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 介護支援専門員連絡会 13回（居宅介護支援事業所9回、小規模多機能型居宅介護事業所4回）
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 1回
- ◇ 個別地域ケア会議 2回
- ◇ 認知症カフェ（ほっこりカフェ、ぽんぽんカフェ） 6回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ たきやま介護予防講座（フレイル予防） 5回
- ◇ 通いの場・サロン等の立ち上げ、継続支援（コロナ感染予防、体力測定） 7回
- ◇ 介護予防に関する講話・周知啓発（サロン、介護予防講座、センター便り等） 35回

紹介したい取り組み

事業名	たきやまスマホ講座、介護予防講座
事業の目的	フレイル予防とセルフケアの意識づけ 社会参加と交流機会の促進
事業概要	6月から11月までスマホ講座終了後に介護予防講座をそれぞれ1時間ずつ全5回開催した。 【スマホ講座】（携帯会社：スマホアドバイザー） 6月 体験編：デモ機を利用した体験 7月 初級編：メール、文字入力、セキュリティ 8月 中級編：MAPとナビ、カメラ、QRコード読み取り 9月 LINE 初級編：LINEとは？（スタンプ、メッセージ） 10月 LINE 活用編：LINE（写真・ビデオ通話）、振り返り 【介護予防講座】 6月 運動講座：フレイル予防の効果的な運動 （圏域内訪問看護事業所：作業療法士、看護師） 7月 栄養講座：栄養バランスの良い食事と野菜の選び方 （圏域内スーパー：野菜ソムリエ） 8月 口腔講座：お口の老化を防ぐエクササイズ （山形県歯科衛生士会：歯科衛生士） 9月 認知症講座：認知症予防 （認知症地域支援推進員：看護師、介護福祉士） 10月 お薬講座：お薬との付き合い方 （圏域内薬局：薬剤師）  
成果または感想	今年度初めてスマホ講座を開催した。「スマホを利用するか迷っている」、「持っているが使いこなせていない」等、操作方法に自信のない参加者が多く、各テーブルにスタッフを配置し対応した。毎回デモ機を準備し、スマホを持っていない方でも安心して参加することができた。また同じテーブル内でメッセージや写真を送り合い参加者同士の交流にもつながった。 介護予防講座は今年度で3年目の開催ということもあり、スマホ講座終了後に介護予防講座を開催することで、新規参加者の獲得につながり参加者も前年より増加した。フレイル予防とセルフケアの意識づけを行うことができた。

5 地域包括支援センターふれあい



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会開催

開催日	主な議題
12月2日	テーマ:「南町町内会と高齢者福祉事業所が防災について一緒に考え、支援し合えるためには」 共催: 第六地区社会福祉協議会・生活支援コーディネーター・ふれあい 内容: 町内、地域の事業所が災害の多い今、防災について一緒にどう取り組んでいくかを話し合い、結果防災協定を結べないかを検討したことを報告し、山形市防災アドバイザー佐藤氏から協定につながるべく取り組み等への助言をいただいた。

◇ いきいきサロン等への参加 20回

◇ 地区役員定例会等への参加 24回 (民生委員児童委員協議会定例会・第六地区社会福祉協議会事務局会議)

◇ 地区行事への参加 第六地区: 地区社会福祉協議会総会(事業開催に向けた会議等にも参加)、福祉協力員研修会、老人クラブ総会、福祉推進会議、町内会総会、等

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 認知症カフェ(ふれあいほっとするカフェ) 8回

◇ 消費者被害防止啓発ボランティア交流会 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員連絡会・情報交換会 4回 ◇ 介護・認知症講座 1回

◇ 介護ふれあい交流会サポート 8回

◇ サービス事業所連絡会・地区貢献支援活動(移動支援) 9回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ ふれあい健康講座(お口若返り講座) 2回

◇ 通いの場継続支援(10カ所の通いの場に巡回)

◇ 出前講座(介護予防 認知症 栄養講話・・・) 20回

紹介したい取り組み

事業名	『出前』ふれあいほっとするカフェ in 南栄町会館
事業の目的	地元の集える場所まで歩いていき、なじみの仲間と参加できる「認知症カフェ」の実施
事業概要	令和4年度よりコロナ禍の中、感染対策に留意しながら、南部公民館を拠点として2カ月に1回、認知症カフェを開催してきた。地域の福祉事業所（陽だまり）の「移動支援」という協力を得ながら、会場まで遠いけれど参加したい方のニーズに应运ってきた。しかし、「カフェが歩いて行ける場所にあつたらいいのに」という声や、実際に参加された方からは「近所の人などなじみの人もいない…」という声があった。 そこで、現在行っている会場から一番遠い町内（4つ）を対象とした認知症カフェを開催してみようと地域へ提案。カフェの会場を「南栄町会館」に選定した理由としては、我が事・丸ごと地域づくり推進事業の拠点となっており、様々な活動が活発であったこと、もともと南栄町の町内会長が認知症カフェに好意的で参加された経験もあったことが挙げられる。対象町内の役員や協力をお願いできる方々へどんな形で行うのか、運営の仕方や内容など、南部公民館でのカフェの内容を参考にしながら相談し進めた。当日は、南部公民館で「認知症サポーター」として運営を一緒に行っている方にも協力を得て実施することができた。
成果または感想	今年度、地域の方と相談して2回（夏と秋）開催することができた。歩いて行くことができるため、対象町内の方がそれぞれ参加してくれた。また、運営を一緒に行った方が声をかけて参加してくれたり、1回目参加した人が2回目に友人を誘って参加したりできたことで参加者が多く、運営者側の満足度も高かった。開催した雰囲気も町内関係なくテーブルでの対話ができ楽しく過ごすことができた。 参加者は、「1回目（土曜日）：30名」「2回目（金曜日）：29名」。開催曜日が違うことで参加メンバーに変化があり、1回目の開催時の地域の方々の周知活動の効果があつたからの人数ではないかと思われる。 今年は、4つの町内を合同にしたが片側2車線の道路を渡る場合だとやはり「気軽に歩いて」ということが難しいと改めてわかつた。そのため、来年度は歩いていける「ふれあいほっとするカフェ」、「出前」ではなく「地元に着した」カフェを圏域内の町内あちこちで行うことで、気軽に集って「認知症」を含む様々な情報や相談がしやすい、『認知症に優しいまちづくり』ができるよう考えていきたい。 また、来年度は「移動支援」について必要時に稼働できるような体制や仕組みを生活支援コーディネーターと、今のカフェが「チームオレンジ」として活動するためにはどうしたらいいのかなどについておれんじサポートチームと、それぞれ一緒に検討していきたい。

6 山形西部地域包括支援センター

1 総合相談業務



◇ 地域包括支援センターネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
7月19日	5地区合同	～ウィズコロナの地域活動について、これまでを振り返り、あらためてこれからを考える～
12月1日、6日、8日、12日、15日	南山形 本沢、西山形 村木沢、大曽根	～高齢者を取り巻く地域活動と関係機関との連携について～

◇ いきいきサロン・通いの場への参加 45回

◇ 民生委員定例会/我が事丸ごと相談会への参加/民生委員との個別情報交換 38回

◇ 主な地区行事への参加

南山形：地区福祉推進会議、福祉協力員研修会、敬老会

本 沢：三者懇談会、福祉協力員研修会、

西山形：福祉協力員研修会(2回)、はつらつ元気教室 2回(打合せ5回)

村木沢：社会福祉部研修会 2回(打合せ2回)、

大曽根：地域福祉推進会議、福祉協力員研修会、文化の祭り、

◇ 南山形百歳体操(健康講話)9回、福祉道場 打合せ含む 5回

◇ 認知症サポーター養成講座 新南山形いきいきサロン、南山形商工会(打合せ3回)、西山形小キッズサポーター養成講座(打合せ2回)

◇ 百歳体操への参加 南山形/村木沢/大曽根/西山形にしにし会(新規)/双葉 計 33回

◇ 本沢備える研修 打合わせ含む2回

◇ 本沢地区介護予防重点事業(3回1クール) 2サロン

◇ 山形市認知症予防教室(おれんじチームこころ共催) 南山形みはらしの丘

◇ 関係団体への研修会 5回

◇ 地域密着型運営推進会議 13回(GH①、認知デイ①、小規模多機能②)

◇ 地域交流バス(南部線 5回、あじさいバス 3回)それぞれの意見交換会

◇ はつらつ生活出前相談の情報交換(大曽根さわやか荘、黒沢いこい荘)実施 1回

◇ 西山形介護者サロン「いっぐぐ会」 10回(公民館、集会所)

◇ 認知症カフェ 市営住宅 11回、カフェオキナグサ再開に向けた話し合い 4回

◇ 文教大認知症カフェへの参加と情報交換 2回

◇ 本沢地区元気もりもり応援隊活動支援、名簿更新 17回

◇ センターだよりの発行 4回

◇ ツナガル大曽根の発行 2回(バス乗車取材 2回)

◇ 人生会議「いっぶぐカード」体験者 500 名突破、ポピーとのかーどの検討/見直し 9 回

2 権利擁護業務

- ◇ 成年後見制度の対応 2件
- ◇ 高齢者虐待等への対応 7件
- ◇ 出前相談等（消費者被害/もしもシートの紹介等） 2回
- ◇ 困難事例の相談対応等 21件

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 個別地域ケア会議の開催 7回
- ◇ 圏域内居宅連絡会・幹事会 4回
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 6回
- ◇ 自立支援型ケア会議 4回
- ◇ 本沢地区施設相談員情報交換会 2回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- 介護予防講座:西山形はつらつ元気教室（コミセン/地区共催） 2回
- ◇ いきいきサロン・通いの場(百歳体操)への参加 前述

紹介したい取り組み

事業名	南山形商工会 認知症サポーター養成講座
事業の目的	認知症高齢者への地域での見守り体制づくり
事業概要	南山形地区では、以前より認知症になっても住み慣れた自宅で暮らしていける街づくりを目指しています。その中で様々な研修や会議を行っていましたが、令和元年には『認知症にやさしい地域づくり情報交換会』を開催し、地区内の金融機関も含めどのように認知症高齢者を支えていくか話合いの機会がもたれました。 話合いを重ねる中で、認知症の理解や早期発見のみならず、認知症になっても地域の住民はもとより身近な商店の方々の日々の見守りが大切で、その体制が作れないかと話が出たのが今回のきっかけです。コロナ禍で一時的取り組みは中断しましたが、ついに令和5年9月に当日を迎えました。 皆さん仕事を終えた金曜の夜でしたが、コミセンホールに老若男女たくさんの業種の方や地区を支える民生委員や福祉施設の方が集まってくださいました。サポーター養成講座の後半では少人数でのグループワークを行い、日頃お客さんに接していてあれ！？と感じた事を情報交換し、そのあとで自分たちに何が出来るかを話し合いました。
成果または感想	今後の展開として、グループワークでは、南山形地区独自の見守りキャラクターを作ってはどうかや、見守り体制がわかるVTRを作成したら等活発な意見が出されました。今後これらをどう形にしていけるか、商工会の方や地区の方々と検討を継続していきたいと思っています。

7 篠田好生会さくら地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
2月29日	①センターの活動報告 ②協議テーマ「コロナ禍を経て 今私たちにできること」～地区活動の再開へ生活支援コーディネーターからコロナ禍前後の地区活動状況について報告。その後、グループ協議

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
10月30日	第一	テーマ「地域防災力を高める！」～地域のつながりを強くするために～ ①山形市総務部防災対策課より講話 ②グループ協議 第一層生活支援コーディネーターから三者懇談会について説明を受けた後、地域現状について情報交換
11月17日	第二	テーマ「災害に備え part2」～第二地区で起こり得る災害と対策～ ①ウェザーハート災害福祉事務所千川原公彦氏より講話 ②グループ協議 町内の防災の現状や今後取り組んでみたいことについて

- ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 5 回
- ◇ いきいきサロンへの参加 31 回
- ◇ 地区役員定例会への参加 76 回（民生委員協議会定例会 等）
- ◇ 地区行事への参加

第一地区：正副会長会、地区社会福祉協議会理事会、地区社会福祉協議会総会、福祉協力員研修会、福祉推進会議、福祉懇談会

第二地区：福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、地区社会福祉協議会総会、地区社会福祉協議会事業打ち合わせ会

- ◇ 出前相談 40 回
- ◇ センターだよりの発行 4 回

2 権利擁護業務

- ◇ 高齢者虐待・困難事例 相談対応 90 回
- ◇ 権利擁護に関する周知啓発（サロンや研修会等）

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 4 回

◇ 圏域内居宅連絡会（医療機関/民生委員との情報交換会、事例検討会等） 3 回

◇ 介護支援専門員への個別支援 31 件

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 16 回

紹介したい取り組み

事業名	チームわん・つー！情報交換カフェ（圏域内福祉関係等事業所の集まり）
事業の目的	圏域内事業所（他機関同士）同士で顔の見える関係を作る。 地域の事業所や専門職と地域がつながる機会をもつ。
事業概要	ネットワーク連絡会を通じ、圏域内の医療・介護・障害の専門職同士が顔を合わせて情報交換ができる場が必要ではないかとの声が上がリ、令和元年6月より2カ月に1度開催。コロナ禍ではZOOMで短時間の情報交換だけになっていたが、今年度より参集型で再開し、内容は参加者から幹事2名を選出し相談。3か月に1回、年4回開催した。 事業所同士で人材不足や各事業所の研修について情報交換したり、地域とつながるために各々サロンへ参加し社会資源マップに情報を追加したりした。
成果または感想	新しく参加される事業所も増え、久しぶりの参集型で顔を見ながら情報交換ができ、顔の見える関係作りができた。各々の事業所で地域のサロンへ参加したが、営業時間内の隙間時間での参加となり、参加に時間が割けなかった事業所も多かった。地域と事業所がつながるためにはどのような方策が一番かよく検討していきたい。また、ブロック毎の事業所連絡会もある中、チームわん・つー！情報交換会の開催頻度も事業所で負担にならない程度での開催が必要だと感じた。  
事業名	すこだま元気塾
事業の目的	第一、第二地区住民の方々の健康づくりと地域活動への参加を支援する。
事業概要	今年度は4回シリーズとし、定員15名で毎回参加できる方を募集。篠田総合病院リハビリセンターの協力を得て初回と最終回に体力測定を実施したり、市役所の作業療法士・管理栄養士から健康講話を行ってもらったりした。また、運動普及推進員の協力を得て、霞城公園や市内ウォーキングマップのショートコースのウォーキングも実施した。
成果または感想	初回と最終回に体力測定をする事で、自身の体の状況を知り、運動へのモチベーションを上げ、最終的に体力維持につながった。講座だけでなく地域の社会資源を紹介して参加を促し、実際に自分で参加できるようになった。4回固定の参加者にする事で、講座終了後も生活支援コーディネーターに調整してもらいながら参加者同士のグループで新しい活動に取り組めるようになった。今後も地域住民の健康増進に向けて講座を開催していきたい。  

8 地域包括支援センターかがやき

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会



開催日	主な議題
2月4日	第九地区ネットワーク連絡会（地区防災研修・福祉懇談会共催） 防災・個人情報の保護・三者懇談会の開催などについて
3月21日	圏域ネットワーク連絡会（書面） ① 令和5年度地域包括支援センターかがやき事業 中間報告について ② 令和6年度地域包括支援センターかがやき事業計画の策定について

◇ 地区役員定例会への参加 24回

◇ 地区行事への参加（一部のみ記載）福祉協力員連絡会・研修会、地区社会福祉協評議員会総会、地域福祉推進会議、さんさんカフェ運営委員会 多数

◇ センターだよりの発行 4回（4月・7月・10月・1月発行）

2 権利擁護業務

◇ 虐待防止に関する住民への周知を図るため、広報誌に「虐待発見チェックリスト」を掲載した。

◇ 権利擁護相談 35件、（延べ件数37件、新規相談受付分のみカウント）

項目/ 地区	第3地区	第4地区	第9地区	その他	不明	延べ件数
後見関係	3	4	0	0	1	8
虐待関係	3	2	2	0	0	7
生活困窮等	7	4	2	1	2	16
その他	0	5	1	0	0	6
計	13	15	5	1	3	37

実相談件数 35 件。後見関係 8 件、虐待関係 7 件、生活困窮関係 16 件、その他延べ 6 件。前年比と比べて生活困窮にまつわる相談件数が多くなり、権利擁護に関する相談は横ばいで推移。相談内容で、生活困窮の相談が増加した背景には生活困窮の原因が経済的な側面だけでなく、その世帯の抱える問題が複雑化し、子ども・障がい・高齢・生活困窮といった各分野だけの縦割りの支援では対応が困難になっていることがあげられる。また、多機関協働支援センターからの相談も増えるなど一層多機関が連携し対応するケースが増加している。権利擁護に関する相談は本人からの相談が増加しており成年後見制度や ACP について啓蒙・啓発活動を積極的に実施していく重要性を感じている。

件数には含まないが、離れている家族に連絡がつかない、警察からの相談等による包括への安否確認の相談は 11 件 65 歳未満の方の相談が延べ 19 件 8050 問題と言われる相談は 0 件となっている。
◇ 第 4 地区にて地域推進会議で「ACP 愛称：人生会議とは」というテーマを取り上げ、在宅医療・介護連携室ポピーと連携し住民講座を実施した。

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 10 回

◇ 圏域内介護支援専門員連絡会 2 回（連絡会・研修会）

◇ 圏域内居宅、小規模事業所管理者懇談会 2回

◇ 幹事会 4回

介護支援専門員研修会	個別支援 (介護支援専門員からの相談に対する対応)
・第1回圏域内ケアマネ研修 R5年7月14日 「地域資源とインフォーマルサービスについて」 参加 20名 ・第2回圏域内ケアマネ研修 R6年2月27日 「人生会議について～いっぽくカード体験」 「指ヨガで日頃のストレスを軽減しよう」 参加 13名 ※ケアマネ向けの様々な研修が増えている中、幹事を中心として圏域内ケアマネの要望に沿った内容での研修を企画実施。アンケートでは概ね好評となっており、ケアマネの資質向上につながっていると考えている。	・ケアマネからの個別相談は10件寄せられた。包括支援センターと連携のうえチームでかかわる意識が高まり、気軽に相談できる環境が整ってきたことも影響していると思われる。

4 介護予防ケアマネジメント業務

「住民主体の通いの場」については、長寿支援課予防推進係及び生活支援コーディネーター等の協力を得て、立上げ支援や継続支援等を行なった。開催場所として、地域内の介護事業所などに場所の提供をお願いしている。住民が主体となって運営が継続的に行われており、参加者同士の関係性の深まりとともに生活支援等の互助も進んできている。

◇ 介護予防教室 述べ 82名参加

◇ 出前講座(介護予防に関する内容) 10/20 第四地区拡大サロン 「フレイル予防で毎日元気」

紹介したい取り組み

◇ 民生児童委員個別訪問

改選で圏域内の民生児童委員の体制も変わり、地区によっては半数以上の方が新任となったほか、引き続き空白だったり、空白だったところが新たに選任されたりと状況が大きく変わった。個別の相談について対応することはあったが、来所もしくは訪問を行い、日ごろの活動などから、心配なこと、困ったこと、地区の状況、心配な方など情報交換などを行った。また、地図を持参し、市から配布されている担当地区の情報の修正、確認を行った。

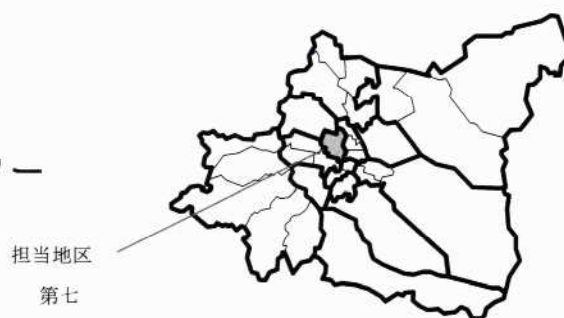
◇ 「フレイル予防を学ぼう」講座 10/31 11/14 北部公民館 大ホール

10、11月に全2回、フレイル予防サポーター養成のため、第三地区福祉協力員対象に以下の講座を実施し、延べ82名参加。今後、各通いの場にて啓発・普及するために、動画を作成し講座に活用した。アンケート結果の満足度も高く、栄養摂取状態の個人の振り返りも好評であった。

- ・「フレイルチェック」 ・「食べることはフレイル予防の第一歩 BDHQ・結果解説」
- ・「フレイル予防とお口」「筋力・免疫力を維持し、フレイルを予防する」動画作成・講話・体操
- ・社会参加について ・市介護予防事業について



9 山形市社会福祉協議会 霞城北部地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月14日	・令和5年度事業計画・地域の計画について報告 ・介護予防（江南公民館との共催等）・男性介護者カフェ ・地域の方と圏域内事業所、関係機関とのつながりについて
2月28日	・令和5年度活動実績と内容報告 ・来年度の取り組みについて

◇ 地区ネットワーク交流会 「認知症カフェについて知ろう」

◇ いきいきサロンへの参加 17回

◇ 地区行事・会議への参加

福祉協力員ブロック代表者会議、地区社協評議員会、福祉協力員研修会、
三者懇談会（清水町・下条町3町内・城西二区・肴町一区・西下条）、第七地区健康推進事業、
地域福祉推進会議、サロンスタッフのサロン

◇ センターだよりの発行 3回

- ・65歳以上高齢者宅全戸配布
- ・公民館・金融機関・医療機関・歯科医院・薬局・交番・介護保険事業所に配布

2 権利擁護業務

◇ 男性介護者サロン 2回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員への個別支援 6回 ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 9回

◇ 圏域介護支援事業所連絡会（霞城西部と合同開催）

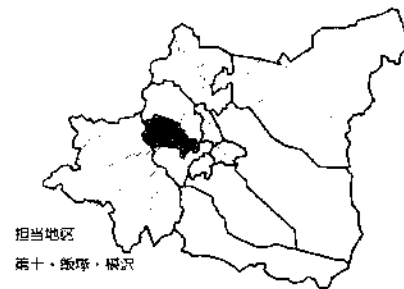
4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 11回

紹介したい取り組み

事業名	第七地区ネットワーク交流会
事業の目的	圏域内にある介護保険事業所の方と地域住民が顔の見える関係ができる事により、高齢者への見守りや支援が円滑にできる体制を構築する。
事業概要	これまで年1回、ネットワーク交流会を開催してきたが、コロナ禍では開催を見合わせたり規模を縮小して行ってきた。今年度は久しぶりに大勢の方に参加頂くことができた。今回のテーマは『認知症カフェ』について。地区内でまだ開催されていない認知症カフェの体験を通し、その理解と認知症高齢者への支援や見守りについて考えていただくきっかけとした。当日はマリンバの演奏や、カフェタイムでの歓談など、和やかな雰囲気、認知症カフェを模擬体験して頂いた。
成果または感想	「認知症をまだ隠す傾向があるので、家族の介護負担も大きい。気持ちを吐き出せる場があるといいと思う」「誰が主体となって行うのか」「お金はどこから出るのか」等、様々な感想、意見が出された。認知症カフェについて関心を持って下さる方、身近な場所にあればいいなと思って下さる方が少しずつ増えてきていることが感じられた。
事業名	よりみち江南カフェ
事業の目的	身近な場所で、気軽に地域住民が寄り合い、介護や認知症についての情報交換をしたり、相談ができる場所づくり
事業概要	江南公民館のロビーで開催している『いきいき百歳体操』の前後に、カフェ形式で、住民同士が気軽に顔を合わせ、また専門職が入ることで、ちょっとした相談ができるようにもしている。包括支援センターの役割の説明など、ミニ講話も行うが、堅苦しいものにならないようにしている。今後定着し、認知症カフェに発展させたい。12月からこれまで3回実施している。少しずつ足固めし、長く続けられるよう、形作っていききたい。
成果または感想	・参加した住民一人ひとりと直接話ができ、包括職員と顔なじみになっていただくことができた。今後、何かあった時の相談がスムーズになると思われる。 ・公民館のサークル活動参加の為に来館した人も関心を持ってくださり、地域を超えた交流や、子育て世代の若い方へのアプローチの可能性も考えられる。 ・包括の役割など、伝えたいことが気軽な会話の中で伝えることができた。 ・百歳体操の前に、カフェ形式で会話ができる時間があることで、体操がより和やかに行っている印象を受けた。 ・民生委員さんの紹介で相談に来られた方がおり、身近な場所で気軽に相談ができる場所としても定着していけば良いと考える。

10 山形市社会福祉協議会 霞城西部地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月28日	・令和4年度の活動実績報告、地域の支援計画について ・おれんじさぼーとチームこころの取り組みについて情報提供 ・認知症に関する取り組みや活動について意見交換
2月21日	・令和5年度活動状況報告 ・単身高齢者世帯への防火訪問について情報提供 ・地域で暮らす高齢者をささえるためにできることについて意見交換

◇ いきいきサロン等への参加(100歳体操) 26回

◇ 地区役員定例会への参加 32回

◇ 地区行事への参加 13回

(第十地区)

民協定例会、福祉協力員世話人代表者会議、福祉協力員研修会、城西三区定例会、城西一区三者懇談会

(飯塚地区)

民協定例会、飯塚三役会、飯塚地区評議委員会、福祉協力員研修会、飯塚我が丸検討会、飯塚地区の交通課題を考える会、飯塚地区福祉推進会議

(樺沢地区)

我がごと丸ごと地域づくり推進事業検討会、福祉協力員研修会、下樺沢地区三者懇談会、樺沢健康まつり、樺沢児童遊戯健康器具利用説明会、樺沢地区文化祭、樺沢地区新春拡大常任理事会

◇ センターだよりの発行 2回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症カフェ 2回「おれんじミニカフェ in やよい」共催
4回「おれんじカフェ in 山商」共催

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 介護支援専門員個別支援 8回 ◇ 自立支援型地域ケア会議 6回
◇ 個別地域ケア会議 4回
◇ 居宅介護支援事業所連絡会(霞城北部合同) 1回

4 介護予防ケアマネジメント業務

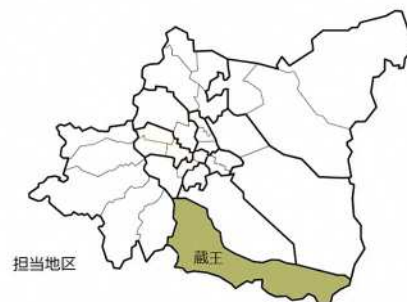
- ◇ 出前講座(介護予防に関する内容) 15回

紹介したい取り組み

事業名	イイヅカエクササイズ～足腰丈夫で快適生活～
事業の目的	介護予防活動を通して、移動手段や地域づくりについて考えるきっかけとする
事業概要	山形徳洲会病院通所リハビリテーションの職員の方から、自宅でできる効果的な運動について講話と実践指導いただく。また、運転やバス利用が難しくなった時、引きこもることなく出かけられるツールとして、セニアカー等の福祉用具を紹介。(株)フロンティアさんの協力を得て試乗会もあわせて開催した。 
成果または感想	地域の皆様から「100歳体操以外にも新しい運動を教えてもらって良かった」「狭い道路ではセニアカーは自転車より安全で操作しやすい」「運転免許を返納しても出かける方法があることがわかり安心した」との声が聞かれた。同時に、いつまでも自分の足で移動できる体づくりの大切さを実感したとの意見があった。後に、榎沢地区でも同じ内容で榎沢エクササイズを開催した。

事業名	これからの認知症予防教室 全3回
事業の目的	認知症の理解を深め、生活習慣の振り返りとともに認知症予防に取り組む講座の開催
事業概要	山形市認知症地域交流支援推進員おれんじサポートチームころと共催。「認知症になっても自分らしく生きるために」というテーマで3回シリーズ開催。毎回認知症ミニ講話を実施し、加えて歯科衛生士による口腔講話、栄養士による栄養講話、作業療法士による運動講話、生活支援コーディネーターから認知症予防と社会交流についてそれぞれ講話をおこなった。
成果または感想	アンケートでは「専門職による講話は丁寧でわかりやすい」「口腔、栄養、運動、社会参加が全てのつながりが健康寿命につながるということがわかった」と好評だった。なかには、介護者の体験談、当事者の話が聞きたいという意見もあり、認知症カフェと地域づくりについて考えるきっかけになった。なお、今年度から、SOMPO ケア山形あかねヶ丘さんの発案で、山形商業高校での100歳体操後おれんじカフェを開催。各町内会役員の方々や、おれんじサポートチームころ、生活支援コーディネーターと協働して1回/3月実施。次年度の開催方法や内容を検討したい。 

11 蔵王地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
5月24日	1. 報告事項 (1) 蔵王地域包括支援センター 令和4年度活動報告 (2) 蔵王地域包括支援センター 令和5年度事業計画 2. 情報提供 (1) 「感染症と共に進む地域活動について～新たな健康習慣と介護予防～」 (2) 「蔵王地区～これからの介護予防について～」
12月8日	情報交換 【テーマ】高齢者ふれあいいきいきサロンの現状とコロナ明けのこれからについて ～町内ごとのサロン担当者の情報交換会～

◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 3回

◇ いきいきサロンへの参加 43回

◇ 地区役員定例会への参加 18回（民生委員児童委員協議会定例会等）

◇ 地区行事への参加

福祉協力員研修会、蔵王地区まつり、蔵王ふれあい集会、三者懇談会、蔵王一中運営協議会

蔵王コミュニティセンターとの共催事業：蔵王地区健康教室、蔵王地区シニア健康づくり事業

◇ センターだよりの発行 3回

2 権利擁護業務

◇ 高齢者虐待対応（個別ケア会議開催） 3回

◇ センターだより「高齢者の権利擁護」掲載



3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 4回

◇ 圏域内介護支援専門員連絡会（研修会、事例検討会等） 2回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 出前講座（共催事業を含む介護予防に関する内容） 31回

◇ サロンだよりの発行 4回

紹介したい取り組み

事業名	蔵王地区シニア健康づくり事業 「人生 100 年時代に備える老い支度」～心も体も元気なうちに考えよう～
事業の目的	シニア世代が専門職の話を聞く事で新しい知識や情報を得て自分の将来を考える機会となる。
事業概要	シニア世代が自分の老後に向け、財産や持ち物をどうするといったのかを元気なうちに考え、身の回りを整理しすっきりとした生活を送れることやいざというときに備えられるように山形しまい事業部代表伊藤千恵子様より「身の回りの整理について（生前整理・家じまい・墓じまい等）」。山形市成年後見センター係長鈴木裕美様より「もしもの備えについて（任意後見制度・法定後見制度・死後事務委任契約・福祉サービス利用援助事業）」について講話を蔵王コミュニティセンターとの共催で開催した。 
成果または感想	人生 100 年時代を見据えた講座を開催した。50 名の参加募集を行ったところ定員を超える参加の申し込みがあった。シニア世代が自分の老後を見据えた老い支度に関心が高いことが分かった。次年度もシニア世代が人生 100 年時代に備える講座を考えていきたい。

事業名	民生委員との情報交換会
事業の目的	民生委員・生活支援コーディネーター・包括と情報共有しながら連携を深め、顔の見える関係づくりをおこなう。
事業概要	令和 4 年 12 月 1 日より蔵王地区民生委員 27 名中 14 名が新任となった。地域の相談役である民生委員と高齢者の生活支援サービスの体制整備等を推進していく生活支援コーディネーターと高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターとの関係を強化するため、民生委員を担当地区ごとに分け情報交換会を 5/20～7/8 までの期間で開催。内容は地域で困っていること・現状を中心に「災害時の対応」や「地域活動」「今後の課題」「実態調査で把握した要援護高齢者」について情報共有をおこなった。 この民生委員との情報交換会は平成 23 年度から民生委員へ個別訪問や包括へ来所いただき情報交換を行っていた。令和 3 年より担当地区ごとに開催し、担当地区課題の早期発見や地域のネットワークづくりの強化を図っている。
成果または感想	このような情報交換会の場で顔の見える関係を構築したことで、情報交換会後に民生委員からの相談が増加した経過があった。顔の見える関係ができたことで相談しやすくなり、早期に連絡をいただき地域の高齢者の安全が守れるよう連携を図っていきたい。

12 済生会愛らんど地域包括支援センター

1 総合相談業務



◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
(第八地区) 7月6日	令和4年度 済生会愛らんど地域包括支援センター事業報告
(第五地区) 7月19日 ※天候不良により書面開催	令和5年度 済生会愛らんど地域包括支援センター事業計画
(東沢地区) 7月20日	今年度の活動内容や地区の動向について意見交換 高齢者見守りネットワークについて

- ◇ 民生委員児童委員との懇談会 (東沢地区、第五地区・第八地区・東沢地区合同)
- ◇ 民生委員等地域の方々を通して臨時に広報紙配付協力を依頼し情報収集や啓発活動
- ◇ 公営住宅高齢居住者に関する懇談会
新型コロナウイルス感染症対策に十分配慮したうえで実施
市営松原住宅・市営天満住宅・県営あたご団地 各1回
- ◇ コロナ禍におけるいきいきサロン・ふれあいサロン立ち上げや再開に向けて助言等実施
- ◇ 地区役員定例会等への参加 32回
(民生委員児童委員協議会定例会、東沢地区社会福祉協議会定例会、福祉協力員世話人会)

◇ 地区行事への参加

第五地区：福祉協力員委嘱状交付式、福祉協力員研修会、わが每丸ごと地域づくり相談会、地域福祉推進会議、地区社協・愛らんど共催健康講座、サロン運営継続の支援

第八地区：福祉協力員委嘱状交付式、福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、新規サロン立ち上げ、サロン運営継続の支援

東沢地区：福祉協力員委嘱状交付式、福祉協力員研修会、民生児童委員・福祉協力員との福祉ネットワーク、地域福祉推進会議、サロン運営継続の支援、ミニ福祉講座

- ◇ センターだよりの発行 6回 (定期発行のほか、臨時号2回健康講座案内)

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座
- ◇ 福祉サービス利用援助事業利用及び成年後見制度申し立て支援
- ◇ 後見支援チーム会議
- ◇ 高齢者虐待対応 (個別ケア会議の開催、関係機関会議)
- ◇ 消費者被害への対応と啓発活動

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議(個別及び自立支援型)の開催 13回
- ◇ 介護支援専門員に対する支援困難事例への個別指導・相談対応 11件
- ◇ 圏域内居宅介護支援事業所等連絡会
- ◇ 地域密着型事業所運営推進会議及び地域密着型通所介護事業所運営推進会議 32回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 東部公民館事業共催 いきいき100歳体操の運営・協力（第2、4木曜日）
- ◇ 愛らんど健康講座 ①在宅医療・在宅介護について②ZOOMの使い方講座③オンライン健康講座「介護予防体操教室」④オンライン健康講座「栄養とお口の健康講座」（下記の紹介したい取り組みをご参照下さい。）
- ◇ 地域サロンにて介護予防に資する講話を実施

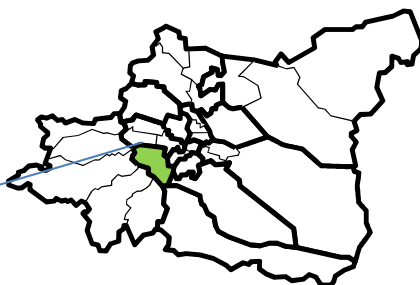
紹介したい取り組み

事業名	愛らんど健康講座
事業の目的	健康リスクの高い項目へのアプローチのため、経年的に健康講座の開催を企画している。圏域内住民の介護予防に関する意識の向上及び各リスク低下を目的に健康講座を開催した。また、社会状況に左右されない開催方法や集客方法を検討し、今年度も昨年度に引き続きオンライン開催企画し、実施した。
事業概要	【第1回（7月25日、8月1日）】在宅介護・在宅医療について 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所より、在宅での介護・医療について事例などを紹介いただきながら学んだ。参加計 17 名 【第2回（9月29日）】ZOOMの使い方講座 各自のスマホまたはパソコンを持ち込んでいただき開催。Zoomの仕組みやZoomへのログインの仕方、具体的な機能の使い方などを学び、実際に参加者同士でZoomを体験した。参加 11 名 【第3回（10月11日）】オンライン健康講座「介護予防体操教室」 会場参加とオンライン併用のハイブリッド式で講座を開催。作業療法士よりフレイルを予防するための身体作りについて体操を実施しながら学んだ。歯科衛生士より、オーラルフレイルについて、実際に口腔体操を行いながら学んだ。体操は指導する様子をWEBカメラで写しスピーカービューにすることで指導する様子がオンライン参加者にもわかるように配慮した。会場参加 9 名 オンライン参加 1 名 【第4回（10月25日）】オンライン健康講座「栄養とお口の健康講座」 第3回と同様会場参加とオンライン併用のハイブリッド式で講座を開催した。宅配クック123の管理栄養士より、たんぱく質を上手に摂るコツや、歯科衛生士より普段から実践可能な口腔体操を学んだ。会場参加 14 名 オンライン参加 1 名
成果または感想	年々平均寿命が延び、65歳以上の高齢者数は、2025年に3,657万人となり2042年にはピークを迎えるといわれ、住み慣れた地域で必要な医療や介護サービスを受けつつ安心して自分らしい生活を送ることが求められている。在宅医療と在宅介護について学ぶことで、在宅での具体的な医療や介護の内容がわかり、今後自分や家族がその状況になった際のイメージに繋げることができた。また、地域住民の在宅での医療や介護の意識やニーズも把握できた。さらに、介護予防体操やお口の健康、栄養についても、地域住民の関心の高さがうかがえた。今後も、地域住民のニーズや関心などを踏まえ、効果的な健康講座の開催を行って行きたい。

13 南沼原地域包括支援センター

1 総合相談業務

担当地区
南沼原



◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
8月31日	「町内会活動について共有しよう」 ①講話 ②グループワーク (紹介したい取り組み参照)
11月16日	困りごとのその先を考えよう！ ～お互いさまの取り組みから見えること～ ①第一回ネットワーク連絡会より ②各団体より活動紹介 ③意見交換 ④事業所紹介

◇ 地域ケア会議(個別事例に関するもの) 11回

◇ いきいきサロンへの参加(バスの乗り方講習会含) 16回

◇ 地区役員定例会への参加 30回

◇ 地区行事への参加

地区社会福祉協議会総会・役員会、民生委員協議会・三役会、地域福祉推進会議、町内会連合会、福祉協力員研修会、各いきいき百歳体操、各町内会三者会議 等

◇ センターだよりの発行 4回

◇ Facebookにて高齢者に役立つ情報の発信 84回

2 権利擁護業務

◇ 認知症カフェ主催 23回(脳いきいきカフェ12回・脳いきいきオンラインカフェ11回)

◇ 脳いきいきふれあいカフェ(相談会)参加 10回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 圏域内介護支援専門員管理者連絡会 6回 研修会、事例検討会等 2回

◇ 圏域内小規模多機能管理者連絡会 4回 研修会、事例検討会等 1回

◇ 圏域内運営推進会議への参加(書面含む) 35回

◇ 圏域内事業所連絡会おらっちょ会議 6回(全体会議3回・プロジェクトチーム会議3回)

◇ 圏域内事業所連絡会総会・情報交換会 1回 交流会 1回 研修会(ZOOM) 1回

◇ らくせいホール協議会定例会 8回

◇ どんぐりの木定例会 1回

◇ かえるの会定例会 1回

◇ 圏域内クリニック・薬局訪問 24ヶ所

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 生涯現役バリバリ講座 2回

◇ サロンの立ち上げ支援 1ヶ所

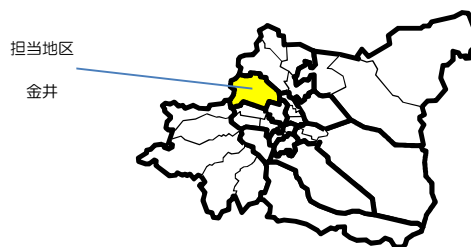
◇ BCP作成

紹介したい取り組み

事業名	南沼原ネットワーク連絡会 ・ 地域福祉推進会議
事業の目的	各町内会における現状と課題について、町内会とサポート事業所が共有し取り組みについて考える
事業概要	市民社会サポートやまがたの石山由美子氏より、少子高齢化が進む中誰もが住みやすい地域を作るには、行政にだけ頼るのではなく、住民自らが現状を見据えつつこれからの時代に即した取り組み（備え）を今から始めることが大事であると教示頂く。包括から実際の相談事例を紹介し、地域で現在困っている事と将来困りそうな事を出し合い、その後各町内会毎に、役員とおらっちょプロジェクトのサポート事業所とで、困り事に対して町内会で今取り組んでいる事や今後事業所と一緒にできそうな事についてワークショップを行った。 
成果または感想	コロナ禍でできなかったが、久しぶりに町内会とサポート事業所が話をできた。現状を見つめ合い将来の事を、住民が我が事として考える時間となった。共通の課題として役員の担い手が見つからない、若者の町内会活動の理解が得られないなど、今までの地域活動を継続していく不安が聞かれたが、町内会とサポート事業所が協働するおらっちょプロジェクトを活用することで、世代を超えて誰もが安心できる住みやすい地域に近づける事も共有できた。

事業名	生涯現役バリバリ講座 ～自宅で暮らし続けるための医療と介護の話～
事業の目的	在宅療養に関する知識を深め、ACPを考えるきっかけとする
事業概要	昨年の講座のアンケートにて、高齢になっても地域で安心して暮らし続けるために備えておきたい事として「医療と介護の話をきいてみたい」とあった。病気になっても人生の最期まで自宅で暮らすために必要な訪問看護や往診、それらにかかるお金について、地区内にある訪問看護ステーションやまがたといちまる訪問看護ステーションの看護師よりお聞きした。介護保険や医療保険それぞれでできることやその料金、往診など、基本的な事や具体的な事例を聞きながら在宅療養のイメージをし、参加者が聞きたい事を質問しながら理解を深めた。 
成果または感想	訪問看護を受けながら介護した参加者の話も聞く事ができ、在宅療養のイメージが広がった。「知りたい事が質問できたし、分かりやすかった」「今後の生活を考える上でためになる話が聞けた」「親や自分の将来の事について考えてみようと思った」等の感想が聞かれた。

1 4 金井地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月28日	報告 - 委員の交代について - 昨年度の概況報告 - 金井地域包括支援センター今年度事業計画について 情報交換 - 高齢者支援における多機関連携について
2月29日	報告 - 委員の交代について - 令和5年度活動内容について 意見交換 - 新型コロナ5類移行後の状況について ～感じている変化や今後期待すること～

◇ ネットワーク交流会

開催日	主な議題
10月19日	話題提供 - 施設と町内会の連携取り組み例 意見交換 - 地域連携の現状と課題について・私たちができること

◇ 地域ケア会議(個別ケース) 7回

◇ いきいきサロン等への参加 11回

◇ 地区行事・会議への参加

毎月…金井地区社会福祉協議会三役会、金井地区社会福祉協議会理事会、金井地区民生委員児童委員協議会定例会、金井地区地域福祉推進会議、金井地区社会福祉協議会新春交歓会、金井地区社会福祉協議会福祉部長合同研修会、金井地域交通網検討委員会

金井地区福祉協力員総会・研修会、金井地区社会福祉協議会評議員会、江俣町内会三者懇談会(年3回)、陣場町内会三者懇談会(年3回)、吉野宿町内会三者懇談会、東志戸田町内会三者懇談会、

◇ センターだよりの発行 3回

(65歳以上高齢者宅全戸・医療機関・歯科医院・薬局・交番・金融機関・介護保険事業所・ガソリンスタンド・コンビニエンスストア・地域内の商店・金井コミュニティセンターに配布)

2 権利擁護業務

◇ 認知症カフェ 12回 《認知症に関連したミニ講話・トークセッション+フリートーク》

家族介護体験談2回、地域の方の立場から、栄養講話2回、香りと関係、リラクゼーション、おれんじサポートチームえがおより2回、歯周病との関係、指ヨガ・整体で脳血流量UP

◇ 認知症理解の為に講座・声かけ訓練

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 金井地区居宅介護支援事業所連絡会

研修会 3 回（薬について・家族理解・訪問看護）、事例検討会 5 回、情報交換会

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 介護予防講座 11 件

ノルディックウォーキング、栄養、認知症、骨粗鬆症予防、腰痛・膝痛予防、体力測定会、薬、ACP、シナプソロジー、軽体操等

◇ 内表あおぞら体操(第1月曜日)

◇ 吉野宿あおぞら体操(10月～12月 週1回)

紹介したい取り組み

事業名	ネットワーク交流会
事業の目的	コロナ禍により長期に渡る様々な制限の中で介護事業所と地域の方々がこれまでに築き上げてきた関係性が途切れないようにと包括としても継続的な取り組みを行ってきた。しかし感染リスクの高い高齢者に関わる方々であるために顔の見える関係作りは困難でもあった。そこで状況を鑑みながら約3年ぶりに集合型でネットワーク交流会を開催し、圏域内介護事業所とネットワーク連絡会委員から参加して頂き意見交換を行った。
事業概要	参加者：圏域内介護事業所 14 名・ネットワーク連絡会委員(地域の役員等)7 名 事務局等 7 名 計 28 名 話題提供：金井地区介護事業所連絡会代表の「やすらぎの里金井」柳生弘充施設長より、コロナ禍前から現在に至るまでの施設と町内会の連携取り組み例を伺った。 意見交換：グループに分かれ「地域連携の現状と課題について・私たちができること」について話しあった。 介護事業所側からは「地域との連携が大切とは思っていたが、どんなことから取り組んだら良いのかが見えにくく迷いがあった。地域の役員さんの声を直接聞くことが出来、現況の理解を深められた。地域の方にもっと施設のことを知っていただくためにも積極的に取り組んでいきたい。」等の意見があった。 また、ネットワーク委員からも「地域との交流を施設側としても望んでいることが分かった。今後の研修やサロン等内容を企画する際に参考にしたい。防災時の対応を考えても介護事業所との連携が深くなれば良いと思った。」等の声が寄せられた。
成果または感想	名刺交換をしたり介護事業所の特性を直接伝えて頂いたりする機会となった。「今後も継続して開催してほしい」との声が双方から多く頂いた。その後令和6年度1月に開催された「金井地区理事・福祉部長研修会」時には10箇所の介護事業所が参加してくださり、より多くの地域の方々に施設の特性を伝えて頂いた。地域の方からは「金井地区に多くの事業所があって心強いな。」等の声が聞かれた。また、交流会の中で中学生の働く体験の受け入れ先が少ないとの情報提供があったことを機にR6年度の受け入れに8か所の介護事業所が受け入れ協力を申し出ており、ネットワークの深化に向けた動きへと繋がっている。

15 山形市基幹型地域包括支援センター

1 地域包括支援センター後方支援活動

- ◇ 包括主催会議への参加 103回 (打ち合わせ等 15回)
ネットワーク連絡会、他各種連絡会、交流会、研修会、その他等
- ◇ 包括機能別部会の開催 40回 (打ち合わせ等 41回)
総合相談部会、包括的・継続的ケアマネジメント部会
権利擁護部会、介護予防ケアマネジメント部会
- ◇ ブロック情報交換会 26回 (打ち合わせ等 0回)
南西ブロック情報交換会、中央ブロック情報交換会、北東ブロック情報交換会
- ◇ 市主催会議(包括関連への参加) 9回 (打ち合わせ等 0回)
センター運営者会議、センター長会議、センター情報交換会 等
- ◇ ヒアリング・定期訪問 97回
ミーティング、センター内会議、業務会議 等
- ◇ 個別事例対応(同行訪問) 4回 (打ち合わせ等 0回)

2 地域課題把握・解決業務

- ◇ 地域ケア調整会議への参加 5回 (打ち合わせ等 5回)
- ◇ 課題整理・解決策等支援 26回 (打ち合わせ 13回)
- ◇ ワーキングチーム 8回 (打ち合わせ 1回)
- ◇ 自立支援型地域ケア会議の支援 30回 (打ち合わせ 37回)
- ◇ 個別ケア会議への参加 12回 (打ち合わせ 7回)
- ◇ 基幹型主催・共催研修会の開催 33回 (打ち合わせ 13回)

3 地域包括ケアシステム構築に関わる機関の主催する会議への参加

- ◇ 在宅医療介護連携推進事業 39回 (打ち合わせ 24回)
- ◇ 生活支援体制整備事業 83回 (打ち合わせ 29回)
- ◇ 認知症総合事業支援 35回 (打ち合わせ 4回)
- ◇ その他機関 14回 (打ち合わせ 5回)

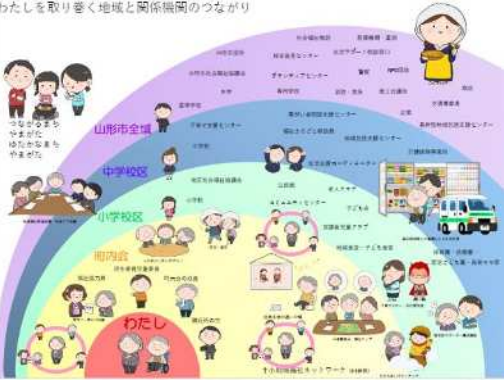
4 事業所支援業務

- ◇ 日常生活総合事業(通所、訪問) 32回 (打ち合わせ 2回)
- ◇ その他事業所 64回 (打ち合わせ 50回)

5 その他

- ◇ 地域住民等への広報啓発活動 128回 (打ち合わせ 4回)
- ◇ 職員の資質向上のための会議・研修会参加 51回 (打ち合わせ 3回)

紹介したい取り組み

事業名	山形市高齢者保健福祉計画全体研修会 ワークショップ「地域包括ケアシステムを作ろう～自身の立ち位置と役割～」
事業の目的	② 山形市の高齢者支援をする際にどのような連携機関があるかを知る。 ②山形市の高齢者支援をする際に基本となる「地域の住人である対象者の暮らし（その人らしい生活）をつくる」視点あわせを行う。
事業概要	「山形市の地域包括ケアシステム」は他に同じものはない「山形市の実状」にあわせた「山形市独自の」地域包括ケアシステムです。 長寿支援課より業務委託を受けている事業者すべてがそれを共有し、同じ視点でそれぞれの役割を活かしあいながら協働していくことを進める目的で行われた山形市主催の「山形市高齢者保健福祉計画全体研修」。その一部として、圏域ごとに様々な事業と協働して図上で「地域包括ケアシステム」をつくるワークショップを行いました。  「本人」を中心として、とりまき家族・地域・公的機関がどのように関わっていくのか、どんな事業があるのか、自身の事業はどこに位置していてどんな役割を果たしているのかなど、それぞれの情報をもちよりながらイメージ図をつくる様子はまるで本物の地域包括ケアシステムを作るような素晴らしいチームワークでした。
成果または感想	「本人」「家族」「地域」といった今ある生活を中心にしながら地域にある資源を知り、理解し、協働することの大切さを、企画した我々もあらためて確認できる機会となりました。 別途お渡しした「作成物等まとめ」もそれぞれの機関がそれぞれの役割をもって作り上げた貴重な資料をまとめたものです。たくさんの取り組みが連携によって有機的に活用されることで山形市の地域包括ケアシステムのよりよい深化につながります。 次年度は第9期介護保険計画も施行されます。あらためて「山形市の地域包括ケアシステム」について思いを一つにしていきたいです。

事業名	ブロック別オール部門事業所合同会議(ミニプレミアム会議)
事業の目的	圏域別に開催することにより「地域特性」に沿った課題共有ができる。ブロックごとに話し合うことで共通理解や連携が図られる。また、事業所間において課題を共有することにより、連携やお互いの事業の役割も知りながら解決に向かい役割を果たしていくことを目的として開催した。
事業概要	地域包括支援センター圏域ごと 3 ブロック(南西、中央、北東)に分かれて開催した。 1 開催日時 いずれも時間と場所は 18:30～20:00 山形市総合福祉センター3 階会議研修室 南西ブロックR5.10/11(水)、中央ブロックR5. 10/12(木)、北東ブロックR5. 10/13(金) 2 参加者 *11 事業所連絡会 代表、副代表、幹事等 *山形市地域包括支援センター *山形市長寿支援課 *基幹型地域包括支援センター 3 内容 第1回テーマ ◆お互いの役割を知ろう!! 介護保険サービス普及啓発チラシで事業所の役割をプレゼンしよう!! 各ブロック同一のテーマと内容で居宅介護支援事業所幹事が、会の進行を行った。各連絡会から出席した方々が、介護保険サービス普及啓発チラシを用いて、事業内容について5分間のプレゼンテーションをした。 発表後、それぞれの事業所に対しての質疑応答や意見交換を行った。司会の方々が、普段の事業所同士の連携や困りごと、より連携を図るための意見などを発言できるよう会を進行してくれた。 地域包括支援センターは介護予防支援事業所としてブロックごとそれぞれ参加した。 4 この会議へ参加した事業所の今後の役割 ・当該連絡会の提案事項を説明し、他連絡会からの意見や提案を聞きとり、当該連絡会へ持ち帰り報告する。 ・地域特性課題の抽出・共有を図る。 ・各事業所連絡会で共有する。 ・介護保険事業所連絡会代表者合同情報交換会(プレミアム会議)で共有する。 ・介護保険事業所代表者幹事会(スーパー会議)で今後の課題の解決に向けてどのように活動するのか協議する。
成果または感想	新型コロナウイルス感染症により介護保険事業所の連携の図りづらさから、圏域でのネットワーク構築と情報共有や課題解決を図るため、今年初めて会を開催した。今回は、お互いの事業所の役割を知ることをテーマにしたが、次年度からは圏域ごとの会で何を求めているか、さらにアイデアを頂きながら効果的な会を開催していくことが求められる。



事業名	なんとかならねべか？ニーズ把握票
事業の目的	ケアマネジメント担当者やサービス提供担当者が、ご利用者の相談対応やサービス提供をする中で気づいた、暮らしの中の「なんとかならねべか？」について、支援者から生活支援コーディネーターへつなぐ事を目的として実施した。
事業概要	① 令和4年度第2回地域ケア調整会議（R4.11.30）において、第1層及び第2層生活支援コーディネーター（以降 SC）から「担い手養成講座後の活動へつなげるための協力」について課題を提出し、協議された。 ② 後日本課題についての今後の進め方について、主な担い手養成主体である SC、おれんじサポートチーム、山形市社協ボランティアセンターと協議。生活支援コーディネーターにニーズが集まってくる仕組みができると良いとのアイディアが出された。 ③ このアイディアを受け、生活支援コーディネーターで「担い手会議」を発足。「ニーズ把握票」の作成を行い、運用について検討した。 ④ 令和5年度の介護保険事業所連絡会代表者会(R5.7.3 開催)で説明し運用を開始。 ⑤ 山形市より介護保険事業所、基幹型より地域包括支援センター（介護予防ケアマネジメント部会にて）に周知。
成果または感想	これまでケアマネジャーや介護保険サービス提供事業所からのニーズ把握の流れは、個々の気づきと繋がりに委ねられていたが、ニーズ把握票の作成により、支援者から SC へのニーズ伝達のルートができたと思う。 ただ、周知についてはまだ十分ではなく、十分に活用されているとは言えない。 今後「なんとかならねべか？」をより気軽に SC へ届けていただけるよう、様式も含め検討をすすめていきたい。 「なんとかならねべか？」がありましたら、右二次元コードからお知らせください！